

女性の就労と 自覚的な健康・疲労感: 結果更新

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)
名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学

近藤 康明 (Yasuaki KONDO)
内藤 靖夫 (Yasuo NAITO)
国際セントラルクリニック

第83回日本衛生学会総会 (2013.3.26, 金沢)

第83回日本衛生学会総会

目的

女性の就労による健康影響を評価するため、
就労状況と自覚的健康・疲労の関連を示す。

対象者

同意を得た 健診受診女性 **5547名** のうち、
現病・妊娠がなく、学生・休職者を除き、
調査項目に欠損のない **4291名**

年齢: 19~58、平均(sd) = 37.9(6.3) 歳

無職 **708**、雇用: 非正規 **1331**、正規 **2252名**
平均週労働時間: 非正規 **30.5**、正規 **43.3 h/w**

問診票を用いた面接で、

自覚的健康感 は

1. とても良い
2. 良い
3. あまり良くない
4. 良くない

普段の疲労感 は

1. ほとんどない
2. あまりない
3. 時々ある
4. よくある

の4段階 に評価し、各点を相関分析に使用

A. 就労 と 自覚的健康 の分布

就 労	とても		あまり	
	良い	良い	良くない	良くない
無職 n	109	503	93	3
%	15.4	71.1	13.1	0.4
非正規 n	148	970	211	2
%	11.1	72.9	15.9	0.2
正規 n	230	1615	398	9
%	10.2	71.7	17.7	0.4

$p < 0.001$ by Mantel-Haenszel χ^2

B. 就労 と 普段の疲労感 の分布

就 労	ほとんど		あまり	
	ない	ない	時々ある	よくある
無職 n	20	69	486	133
%	2.8	9.8	68.6	18.8
非正規 n	22	94	929	286
%	1.7	7.1	69.8	21.5
正規 n	23	119	1524	586
%	1.0	5.3	67.7	26.0

$p < 0.001$ by Mantel-Haenszel χ^2

C-1. 週労働時間 と 自覚的健康 との age-adjusted Spearman's r

非正規 0.093, $p < 0.001$

正規 0.130, $p < 0.001$

C-2. 週労働時間 と 普段の疲労感 との age-adjusted Spearman's r

非正規 0.058, $p = 0.035$

正規 0.134, $p < 0.001$

まとめ

健康感の良さは「無職 > 非正規 > 正規」、
疲労感の強さは「無職 < 非正規 < 正規」で
あった。非正規、正規とも就労時間が長いほど
健康感が悪かった。非正規に比し、正規で
は就労時間と疲労感の正相関が強かった。

今後、客観的健康指標 や 家庭要因 (配偶
者・子の有無など) を加え、**女性の就労による
健康影響を検討・評価する。**

この研究は

三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・
センター、愛知健康増進財団の**助成金**と
文科省・科学研究費を用い、

国際セントラルクリニック (名古屋市中村区) の多くの
受診者と職員 の協力で実施している。

研究経過 は下記 **HP** に順次開示している。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>